

冬道の安全運転1・2・3運動

実施期間【R4. 12. 1~R5. 2. 28】

～ 1割のスピードダウン 2倍の車間距離 3分早めの出発 ～

冬道の走行は、積雪、凍結等によるスリップ事故が発生しやすくなることから、安全な速度、車間距離、早めの出発を心がけて交通事故を防止しましょう。

◇ 運転の注意事項

- 急ブレーキ、急ハンドル、急加速はやめましょう
急な車線変更や急ブレーキは厳禁。先行車との車間距離は多めにとる。発進時はアクセルをじわりと踏み込み、ゆっくり発進。ATのスノーモードや2速発進も有効です。
- 積雪、凍結路面では、他の車両の動きに注意して、防衛運転に努めましょう
- 黒く見える凍結路面（ブラックアイスバーン）に注意
昼間に積もった雪が溶けたときや、雨が降った後の冷え込みが強くなる夜間や明け方は、一見すると濡れたアスファルト路面のように黒く見えるのに、実は表面が凍っているブラックアイスバーンになる可能性が高い。
- 猛吹雪や地吹雪により、急に視界が悪くなる現象（ホワイトアウト）が発生する場合もあることを念頭に置きましょう
ホワイトアウトでの運転は困難なので、ハザードランプを活用するなどして安全な場所に停車しましょう。
- 凍結、滑走が予想される橋の上、トンネルの出口、カーブ、交差点、日陰部分などでは、手前で十分に減速しましょう
日中、雪が溶け路面が乾いていても、日陰部分は、まだ、凍結していることが多いので注意して走行しましょう。
- 走行経路を幹線道路中心にする工夫も有効です
カーナビの過信は禁物です。急な上り坂や細い裏通りは避けましょう。



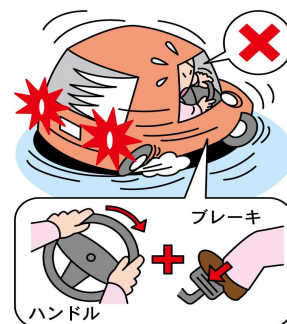
◇ 天気予報などで気象・交通情報を収集しましょう

目的地や経由地の天気や道路状況に関する情報を収集しておきましょう。



『滑走事故防止3原則』

- ① 急ブレーキをかけない
- ② 急ハンドルを切らない
- ③ 急加速をしない



冬道の交通事故防止のポイント



冬道の安全運転1・2・3運動

1割 のスピードダウン

2倍 の車間距離

3分 早めの出発

冬道の走行時は、積雪、凍結等による滑走事故の多発が懸念されることから、安全な速度、車間距離の保持、早めの出発を実践・習慣化しましょう。

滑走事故防止3原則

急 ブレーキをかけない

急 ハンドルを切らない

急 加速しない

特に注意が必要な道路状況

いずれも凍結しやすいポイントです。危険な場所の手前であらかじめ減速しておくことが大切！

そのためには



ことが重要です



橋



カーブ



トンネル出口

出発前の注意点

- 窓ガラスが凍結したまま出発しない！
- ルーフやヘッドライト、ブレーキランプ、サイドミラーの雪も必ず除去！

この状態で安全運転できますか？



フロントガラスが凍結したまま



走行中にルーフの雪がフロントガラスに落ちてきたら…

バイク・自転車での外出は危険

積雪、凍結時、また降雪が予想される場合は、事故防止のため、バイクや自転車の利用を自粛しましょう。



車道を歩くのは危険

車道は、積雪等により車両が滑走してくるおそれがあり大変危険です。

積雪等で歩道が歩きにくい場合でも、車道を歩くのはやめましょう。

